令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県南会場

科目　⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

◆　児童虐待について配慮を必要とする子どもの理解を学んだ。児童虐待は子どもの心身の成長及び人格形成に重大な影響を与えるものである。なぜ叱られ、なぜ叩かれるのか理解できず年齢を重ね、結局自分も同じことをする虐待の連鎖となる。虐待を受けた子どもは身体的だけでなく、知的発達や心理的発達にも大きく影響する。私たちは子どもの小さな変化に気づくことが必要である。気付いたときに一人で抱え込まず、他の職員も相談して情報を共有することが大切だ。

◆　この講義では、増えている児童虐待の件数から保護者を取り巻く生活環境や人間関係の複雑化がその背景にあると感じた。ネグレクトは身近にありがちな虐待であり、おかしいと感じた事象については皆で共有して原因を究明するように意識していきたい。子どもの貧困についてもその原因は保護者にあり、私たち個人がどうにかできるようなものではないが、子どもたちの背景にあるものは何なのか常に意識しつつ、支援にあたっていきたい。

◆　本科目を受講したことにより、児童への虐待の定義、現在の県内や全国の児童虐待件数や内容別割合、子どもにどのような影響があるのか、早期発見の重要性をより理解することができました。特に「放課後児童クラブにおける児童虐待防止のための対応」は、今後自分や周りの職員などがどのように行動するのかがとても分かりやすく、速やかに対応できるようにしたいと思います。

◆　児童養護施設で実習した学生時代、清潔な環境を保つことで子どもに「大切にされている感」を感じさせることを学びました。当時はどうして「キレイ＝大切にされている感」なのかが分かりませんでしたが、この講義で養育能力が十分でない保護者は清潔を保つことも困難な場合もあるのだと気付きました。環境を整えることは児童クラブでも心がけたいと思います。そして、保護者が相談しやすい雰囲気もつくっていきたいです。

◆　４人の職員ですが、毎日打ち合わせの時間を設けて子どもたちの様子について、それぞれ気になった点を話し合います。この時間があるので、一人で気にしたり悩んだりすることなく情報共有できます。非常勤やパートなど、立場に分け隔てなく意見を出せることも良いことだと思います。この１、２年、コロナで大人も子どもをストレスを感じています。そのことで虐待につながらなければいいなと思います。今後も注意しながら子どもの様子を見ていきたいと思います。